

(様式 1)

自己評価表 (令和 6 年度)

愛媛県立宇和島水産高等学校

学校番号 (41)

教育方針	人格の完成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者としての普遍的な資質を養うとともに、我が国の水産業界・海洋関連業界を進歩発展させるために必要な専門的な知識と技術を習得させ、職業人として国家社会に貢献する有為な技術者を育成する。	重点目標	1 我が国水産業・海洋関連産業の産業的使命を自覚させ、国際感覚を持った職業人としての資質（能力・気力・体力）と実践力を育成する。 2 職業人として必要な自律・協同及び勤労の精神を培うとともに、時代に適応した知識・技能を身に付けたスペシャリストを育成する。 3 実践体験を通して学習意欲を喚起し、問題解決能力や創造性の育成に努め、自主的に研究する態度を養う。 4 一人一人の個性に応じた指導を心掛けるとともに、豊かな人間性の育成に努める。 5 地域社会との連携を深め、水産・海洋教育の振興に努める。
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	学習の習慣化	校内もしくは家庭で、1日2時間以上の学習時間を確保させる。 A: 2時間以上 B: 1時間30分～1時間59分 C: 1時間～1時間29分 D: 30分～59分 E: 29分以下	C	平日49.0時間(D) 休日59.7時間(D) 検査中146.8時間(A) 平均85.2時間(C)	平日・休日・検査中のいずれにおいても、昨年度よりも学習時間を増やすことができた。目標の達成に向けて、平日や休日の家庭学習について継続して指導していきたい。
	基礎学力の充実	校内漢字テスト・英単語テスト・計算力テストにおける80点以上の生徒の割合40%以上となるよう指導する。 A: 各7回以上 B: 各6回以上 C: 各5回以上 D: 各4回以上 E: 各3回以上かそれ以下	A	漢字テスト10回(A) 英単語テスト8回(A) 計算力テスト8回(A)	1年生で共通のプレテストを行うなど、小テストに取り組む意識を高められていると感じる。しかし、生徒間の点数差が大きいので、放課後等も利用して指導していきたい。
	思考力・判断力・表現力の育成	各科目において、授業に関する内容を自ら調べたり学んだりさせる。 A: 10割の生徒が活動できた B: 8～9割 C: 6～7割 D: 4～5割 E: 3割以下	C	自己評価 4 及び 3 (69.3%)	授業によっては自ら調べたり学んだりする時間を取れないこともあるが、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、今後も継続して取り組んでいきたい。
		各科目において、自分が調べたことや学んだこと、自分の考えを発表させる。 A: 10割の生徒が活動できた B: 8～9割 C: 6～7割 D: 4～5割 E: 3割以下	B	自己評価 4 及び 3 (80.7%)	授業によっては発表させる機会が少ないこともあるが、今後も継続して取り組んでいきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	1か年皆勤者、各学年65%以上を目指す。 A: 65%以上 B: 60%以上～65%未満 C: 55%以上～60%未満 D: 50%以上～55%未満 E: 50%未満	E	遅刻、欠課、早退、欠席（寝坊、通院、体調不良、家庭都合、自己都合）者多数	学年団を中心に生徒本人に注意喚起する。合わせて、御家庭としっかり連携する。
		身だしなみ指導での再指導者数、各学年5%以下を目指す。 A: 5%以下 B: 6% C: 7～8% D: 9% E: 10%以上	A	生徒課まで上がる問題はなし。	来年度5月に、身だしなみの一部改訂を行う予定である。
	豊かな心・健やかな体の育成	部活動加入率100%を目指す。 A: 100% B: 90%以上～100%未満 C: 80%以上～90%未満 D: 70%以上～80%未満 E: 70%未満	A	昨年度は93.3%であった。	現部員をしっかりと指導し、継続努力を行っていく。
	奉仕精神の育成	ボランティア活動をする生徒90%を目指す。 A: 90%以上 B: 80%以上～90%未満 C: 70%以上～80%未満 D: 60%以上～70%未満 E: 60%未満	A	宇和島道路高架橋下清掃:全校生徒参加 海の日の奉仕活動:悪天候のため中止	他のボランティア活動についても引き続き呼び掛けていく。
	安全教育の徹底	交通マナーを徹底し、登下校、休日の事故件数ゼロを目指す。 登下校時のヘルメット着用率100% A: 事故0 (着用100%) B: 事故3以下 (着用95%以上) C: 事故5以下 (着用90%以上) D: 事故7以下 (着用85%以上) E: 事故8以上 (着用85%未満)	B	6月: 1年生 側溝上のグレーチング上でタイヤを取られて転倒 6月: 2年生 花壇に突っ込んで転倒 9月: 2年生 交差点でつま先がトラックと接触	ホームルーム、生徒集会、交通安全委員会、交通安全街頭指導等を通して根気よく説諭を行っていく。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	第1志望校合格100%を目指す。 A: 100% B: 95%以上～100%未満 C: 90%以上～95%未満 D: 85%以上～90%未満 E: 85%未満	C	進学希望者10名のうち、進学が決定したのは9名で、4年制大学2名、本校専攻科4名、専門学校3名の合計9名である。1名は希望する学校に合格することができなかったため、合格率は90%であった。	1年次からの進路指導を大切にし、早めに具体的な目標を設定させ、必要な対策を始める。特に4年制大学については、必要な学力を身に付けられるよう、継続的に指導していく必要がある。学年、教科担任、進路課等で連携して、個々の希望に応じた指導を計画的に行い、進路実現を目指す。
	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A: 100% B: 95%以上～100%未満 C: 90%以上～95%未満 D: 85%以上～90%未満 E: 85%未満	A	就職希望者のうち、学校推薦で試験を受けた生徒は全員内定をいただくことができた。また、学校推薦以外では、公務員1名、自営1名で、就職希望者18名全員が希望する就職先に決定した。	1年次からの進路指導を大切にし、早めに就職への意識を持たせる。様々な職業や自己の適性について研究し、職場見学等を通して自分の意志で就職先を選ぶよう指導する。また、基礎学力やコミュニケーション力を身に付けて就職試験に臨めるよう、日々の学校生活を通して指導していく。
		就職希望者の水産・海洋・食品系分野への就職率55%以上を目指す。 A: 55%以上 B: 50%以上～55%未満 C: 45%以上～50%未満 D: 40%以上～45%未満 E: 40%未満	A	就職内定者18名のうち、水産・海洋・食品系分野への就職は11名で、61%となった。船舶関係2名、養殖関係2名、食品製造・調理関係6名、県職員(農林水産)1名であった。3年間専門分野の学習に取り組んだ成果が表れたものである。	学校教育全般において、3年間学んだ専門分野を生かした就職先に就くことや、水産業に携わって地域を支えていくことの大切さなどを継続的に伝えていく。
	資格等取得者の増加	資格試験等に積極的に取り組みせ、卒業時に一人1資格以上の取得を目指す。 A: 100% B: 90%以上～100%未満 C: 80%以上～90%未満 D: 70%以上～80%未満 E: 70%未満	A	3年生全員が卒業時に1つ以上の資格を取得することができた。複数取得している生徒も大変多く、専門学科の資格を中心に積極的に取り組んだ成果だと思われる。	専門科目における資格取得を第一目標とし、漢字検定や英語検定などの一般教科の資格や、工業、商業系の資格にも積極的に挑戦するよう働きかける。受験者には、補習等の指導を充実させて合格を目指す。
業務改善	時間外労働の削減	一人1台パソコンや校務系ネットワークの活用により業務の更なる効率化及び平準化を図る。引き続き有給休暇等取得しやすい環境改善に努める。	C	一人1台パソコンや校務系ネットワークの掲示板等を授業や教職員間の連絡に活用することができた。多くの教職員が有給休暇の取得することができた。	一人1台パソコンや校務系ネットワークの更なる活用と業務の平準化に努める。教職員全員が有給休暇を取得できるよう環境改善に努める。
	職場環境の整備	衛生委員会の充実及び実効性を高める。教職員のメンタルヘルスを改善させるため、定期的な健康相談や健康講座の実施に努める。事務課との連携により施設設備の更なる充実に努める。	C	衛生委員会を中心に、教職員のメンタルヘルスを保つために、積極的な声掛けや健康相談の機会を持つことができた。事務課との連携により、校内施設を充実させることができた。	教職員のメンタルヘルス改善のための声かけや健康相談の機会をこまめに設けるよう努める。事務課と連携し、施設・設備の更なる充実に努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。